

国立大学法人信州大学 第4期中期目標・中期計画

中 期 目 標	中 期 計 画
<p>(前文) 法人の基本的な目標</p> <p>信州大学は、信州の豊かな自然と文化の中で、自然環境の保全、新しい文化の創造、人々の健康と福祉の向上、産業の育成と活性化などを目指し、世界の多様な文化・思想を理解し共生する力や自立した個性を大切にしつつ、優れた教育研究を行うことによって大学に求められている社会的使命を果たすことを理念としている。</p> <p>この理念のもとに、第4期中期目標期間においては以下の6項目を基本的な目標として設定する。</p> <p>○教育～信州を学び、未来を拓く人材の養成～</p> <p>信州ならではの自然・文化・産業を活用した学びを実践し、自ら課題を見出しその解決に挑戦する精神と高度な専門知識・能力を備えた、未来を拓く人材を育成する。</p> <p>○研究～知の創造をつむぐサイエンスプラットフォームの構築～</p> <p>優れた研究者を養成し、未来社会に向け挑戦する新しい科学領域の創出による独創的な研究を推進し、また、その成果を活用した社会実装を進めることにより、信州地域におけるイノベーションエコシステムのみならず、世界に通用する研究ブランドを確立する。</p> <p>○社会連携～持続可能な進化型社会連携の実現～</p> <p>信州に点在するキャンパスの強みを活かし、地域の課題解決のために多様な主体が集う共創の場を設けるとともに、イノベーションの創出を牽引する。</p> <p>○グローバル～信州エクセレンスをグローバルに繋ぐハブへ～</p> <p>海外の教育・研究機関との連携を強化し、教育・研究の質の向上とグローバル人材の育成に貢献する。あわせて、本学の教育・研究等の特徴や魅力をグローバルに発信する。</p> <p>○大学経営～あらゆる変化に柔軟に対応できる大学経営の推進～</p> <p>持続可能な信州大学の創出に向け、学長の強力なリーダーシップに基づき、教職学協働の実現等により、社会の変化に応じた柔軟な大学経営</p>	

を推進する。

○医療～高度医療及び先進医療の安全な提供～

特定機能病院として高度医療及び先進医療を安全に提供するとともに、信州の医療人を育成する拠点として、生涯にわたり適切な医療を提供することができる医療人を育成する。

これらの基本的な目標のもと、各中期目標の達成に向けた中期計画に関する取組をはじめ、総合大学として多様な取組を進めていくことを通じて、信州地域への貢献のみならず、我が国が目指すべき社会の姿として提唱されているSociety 5.0の実現、持続可能でよりよい世界を目指す国際目標であるSDGsの達成等にも貢献し、社会の公器としての役割を果たす。

◆ 中期目標の期間
 中期目標の期間は、令和4年4月1日～令和10年3月31日までの6年間とする。

I 教育研究の質の向上に関する事項

1 社会との共創

(1) 人材養成機能や研究成果を活用して、地域の産業（農林水産業、製造業、サービス産業等）の生産性向上や雇用の創出、文化の発展を牽引し、地域の課題解決のために、地方自治体や地域の産業界をリードする。①

I 教育研究の質の向上に関する事項を達成するためにとるべき措置

1 社会との共創に関する目標を達成するための措置

(1) - 1 長野県と本学との協働のために設置している「信州大学・長野県連携室」等、信州大学がこれまで培ってきた多様な産学官連携の枠組み、各機関との連携協定等を活用し、地域のグランドデザインやビジョンを共有しながら地域の課題解決に向けた連携協力及び合意形成を図るユニバーシティ・エンゲージメントを推進することで、地域・社会の活性化に向けた取組を進める。

評価指標	(1) - 1 多様な産学官連携の活動等を通じた信州大学の地域の課題解決への取組状況について毎年度経営協議会の外部委員に報告し、意見聴取を行い、最終年度において第3期中期目標期間に比して一層貢献したとの評価を得ること
------	--

(1) - 2 新時代の地方創生及び未来社会創造を牽引する人材を育成するため、小中高大学から卒業・修了後のリカレントに至る全ての学びを一体的に捉えた大学経営を推進し、学生及び教職員における地域や大学への帰属意識及び地域・社会の課題解決志向を高める取組を展開する。

評価指標	(1) - 2 多様な産学官連携の活動等を通じた信州大学の地域の課題解決への取組状況について毎年度経営協議会の外部委員に報告し、意見聴取を行い、最終年度において第3期中期目標期間に比して一層貢献したとの評価を得ること（再掲）
------	--

(2) 我が国の持続的な発展を志向し、目指すべき社会を見据えつつ、創出される膨大な知的資産が有する潜在的可能性を見極め、その価値を社会に対して積極的に発信することで社会からの人的・財政的投資を呼び込み、教育研究を高度化する好循環システムを構築する。

③

(2) - 1 研究開発から事業化、教育、人材交流までを含み社会に新たな価値創造を行う包括的な産学協働を推進するため、令和2年より開始した共創研究所の仕組みを実装し、本学が強みを持つ分野において大学と企業等との大型共同研究を核とした産学連携プロジェクトを推進する。

評価指標	(2) - 1 共創研究所の設置数3件
------	---------------------

(2) - 2 地域・社会を研究・実験の場(ラボ)に見立て、大学、市民及び企業が共創型で社会課題を研究し、解決を目指す「信州リビング・ラボ」を発展させる。これにより、長野県の特徴である健康長寿、自然環境、住環境等をテーマに次代の価値創出に向けた地域の持続可能性や特徴強化に寄与する資源開発やベンチャー創出を進めるとともに、本学教職員及び学生の連携力や社会実装力の強化、経済的投資や社会変革を牽引する中核人材の学外からの呼び込み等に取り組み、本学を中心とする共創の基盤を構築する。

評価指標	(2) - 2 共創の基盤を構築するために信州大学が提供する人材育成プログラムの修了者3,000人以上
------	---

2 教育

(3) 国や社会、それを取り巻く国際社会の変化に応じて、求められる人材を育成するため、柔軟かつ機動的に教育プログラムや教育研究組織の改編・整備を推進することにより、需要と供給のマッチングを図る。④

2 教育に関する目標を達成するための措置

(3) - 1 信州大学が立地する長野県をはじめとする人口動態、地域社会及び産業構造の将来予測、地域における新たな教育ニーズ等の分析を行う。この結果を踏まえ、新学部等の教育実施体制を整備し、教育プログラムの改編を行うことにより、社会的な課題解決に当たることができる人材を養成する。

評価指標	(3) - 1 分析結果等を踏まえて令和7年度を目途に新たな教育実施体制が整備され、社会が求める人材の育成が行われていること
------	--

(4) 特定の専攻分野を通じて課題を設定して探究するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるとともに、視野を広げるために他分野の知見にも触れることで、幅広い教養も身に付けた人材を養成する。(学士課程)⑥

(4) - 1 各学部における専攻分野の教育及び全学的なリベラルアーツ教育の充実に取り組む。また、学生が自らの学修成果を適切に把握して主体的に学びを深めていくための仕組みとして「学びの履歴書」(ディプロマ・サプリメント)を発行し、学修成果の可視化を行う。これらの取組により、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む能力等である「信大コンピテンシー」を有する学生を養成する。

評価指標	(4) - 1 第4期中期目標期間中に「学びの履歴書」の仕組みを整備し、学修成果を可視化するとともに、ディプロマ・ポリシーに掲げる人材の養成や教育の内部質保証に繋がる取組が行われていること
------	--

※信州大学 第4期中期目標・中期計画(抜粋)
赤枠は資料作成時に協議会事務局が追加したもの。